

1. 件名：福島第一原子力発電所 放射性液体廃棄物の評価対象核種の解析値と実測値
(前回面談コメント回答)

2. 日時：平成28年6月23日(木) 14時00分～14時45分

3. 場所：原子力規制庁8階会議スペース

4. 出席者

- ・原子力規制庁原子力規制部
東京電力福島第一原子力発電所事故対策室；
小野係員、長崎技術参与、片岸安全審査官
- ・東京電力ホールディングス株式会社
プロジェクト計画部 放射線・環境グループ 担当2名

5. 要旨

- 東京電力ホールディングス株式会社から、平成28年5月23日の面談時にコメントした滞留水の核種濃度の解析と実測の関係、地中における放射性物質の移行について資料に基づき以下の説明を受けた。
 - 滞留水中の核種濃度の解析に当たっては、最もインベントリが大きいと考えられる2号機を基に ORIGIN コード及び過酷事故解析 MAAP コードを用いて核種濃度を算出し、溶解性の高い Cs-137 の解析と実測の濃度関係を他の核種に展開して評価している。
 - 滞留水中の6核種の濃度について解析と実測と比較したところ、概ね一致することが確認されたことから、解析による滞留水の核種濃度に基づいて48核種を評価対象に選定したことについては、一定の妥当性があると判断している。
 - 地中の移行については日本原子力学会標準の収着分配係数を用いて評価した。

6. その他

配布資料：

- ・放射性液体廃棄物等の評価対象核種選定に関する解析評価と実測値の比較について

— 以上 —